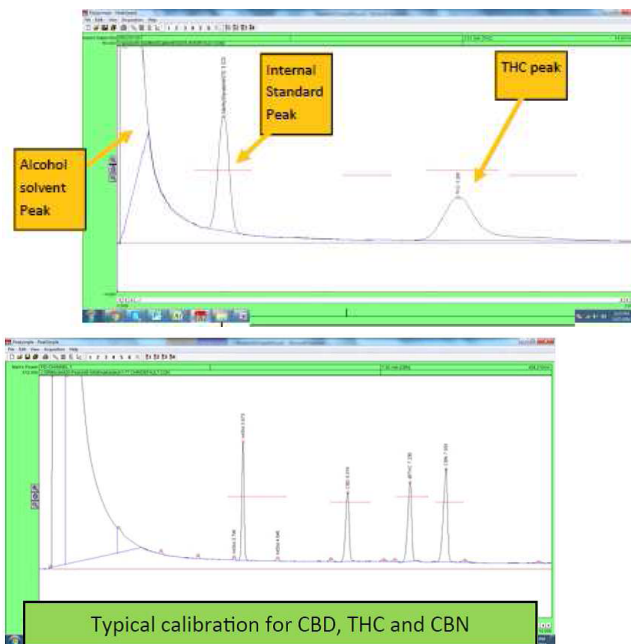


◆大麻成分(カンナビノイド)の分析

近年、世界で大麻に含有される一部成分が、医療効果があるとの報告が多数発表されています。しかしながらテトラヒドロカンナビノール(THC)は、幻覚症状を引き起こすとの治験があり、米国・欧州でも全面解禁には至っていません。しかし医療用大麻として、医師の処方箋があれば市販されているので、生産・流通・卸・小売の各過程で品質チェックが必要となります。従って、分析経験のない人でも簡単に測定できるように装置、および手法が開発されています。

【カンナビノイドの分析】



SRI-310MM
SRI Model-420

各成分の定量は、内部標準法で行います。日本では「大麻およびその製品」は法禁止物質であるため、標準試料が入手できません。従って、米国SRI社ラボでステアリン酸メチルを抽出溶媒にして、検量線をデータ処理ソフトに書き込んであります。

分析者は処方箋に従ってステアリン酸メチルの抽出溶媒を調合し、そこに測定対象物を溶解させ、測定結果はソフト内の検量線により定量します。

簡易的モニタリングには、SRI Model-420 機が便利でした。